



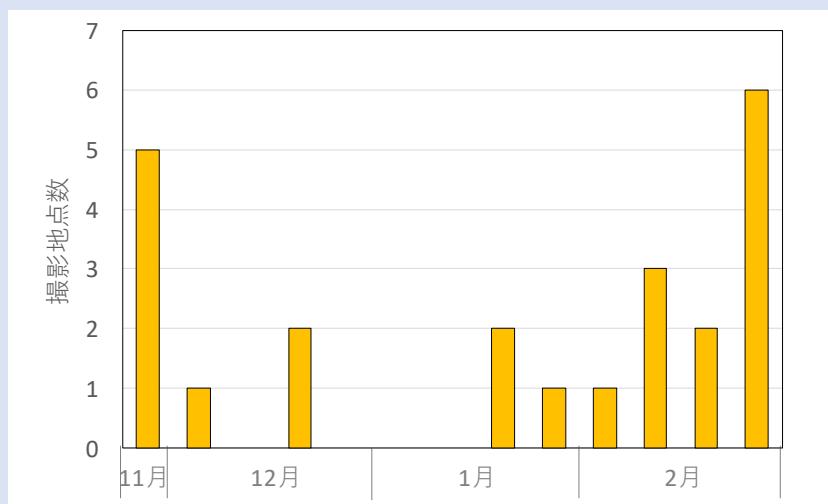
冬も！ わなを設置しましょう



埼玉県ではアライグマの防除を進めていますが、その増加には歯止めがかかっていない状況です。アライグマを減らすためには出産の直前である冬に、メスを捕まえることが効果的です。出産直前のメスを1頭捕獲することは、そのメスが産むはずの3~6頭の子もまとめて捕獲するのと同じ効果を持ちます。

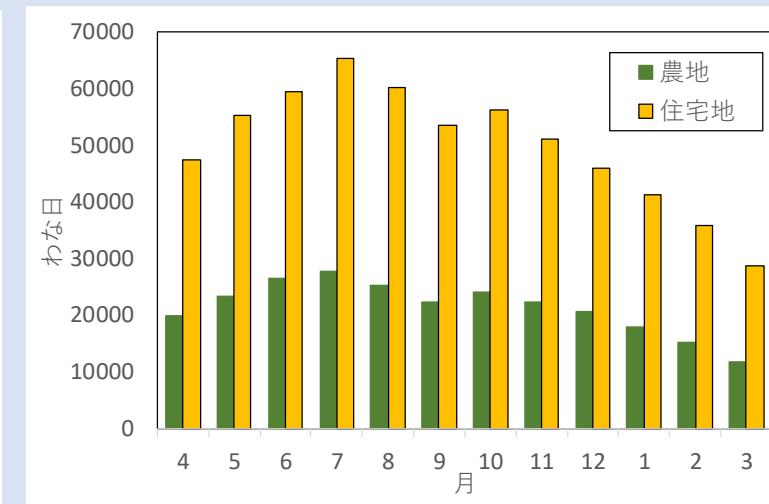
- アライグマを効果的に減らすため、冬もわなを設置しよう
- 冬は住宅地周辺にアライグマが寄ってくるので、住宅地での捕獲に積極的に取り組もう
- 住宅地ではネコなどの誤認捕獲が問題になるため、埼玉式アライグマ専用捕獲器（ラクーンキューブ）の利用が効果的
- アライグマの冬の行動特性（次頁参照）を踏まえて、時期に応じてわなの設置地点を選択しよう

飯能市で撮影されたアライグマ



▲ 月別センサーcamera撮影日

令和3年度に埼玉県が飯能市で実施した、住宅地におけるセンサーcameraによる調査では、アライグマは11月中の撮影が多く、12月～1月には少なくなりますが、2月には増加していました。



▲ 月別わな日

埼玉県では、冬は被害を受ける農作物が少なくなることもあります。わなの設置が減少傾向にあります。特に住宅地周辺で減少傾向が顕著です。

アライグマの冬の過ごし方に合わせた捕獲を

11～12月は、冬を前にしたアライグマが栄養を蓄える時期で、活発に活動します。農地には餌が少なく、住宅地の果樹などに寄って来るので

捕獲には絶好のチャンスです。また、この時期に捕獲すれば繁殖期前にメスの数を減らすことができ、個体数を効果的に減らすことができます。

11月



12月



アライグマの足跡は5本の指が長く特徴的



1月

1～2月は、出産を控えたメスが出産場所を探して家屋や空き家に入り込む時期です。メスの活動は鈍くなり、1月は捕獲しにくくなりますが、

2月は捕獲数が増える傾向があります。センサーダラマや痕跡（写真参照）によりメスの**定着場所を特定して捕獲**することが有効です。

2月

3月



3月には、メスは出産期に入り、巣の周辺からあまり離れなくなります。メスを捕獲するには、

定着場所を特定してわなを設置することが有効です。オスの活動が活発になるので、全体としては捕獲数が増えます。